

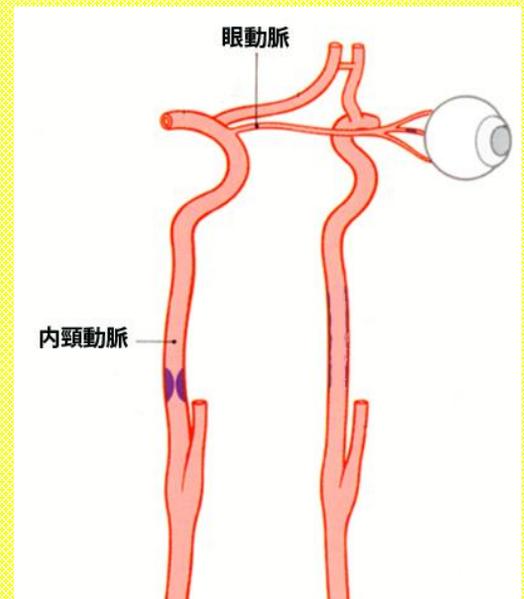
黒そこひ

脳卒中科 岩永 健

「黒そこひ」という言葉をご存知でしょうか。似た言葉で「白そこひ」は眼が白くなる白内障、「青そこひ」は青緑色になる緑内障で、いずれも失明を来たしうる疾患です。「黒そこひ」は見た目には何も変わりませんが、「目の前が真っ暗になる」状態を指しています。医学的には網膜虚血を指しており一時的に終わる一過性黒内障と永続的に症状が残る網膜動脈閉塞症があります。

網膜虚血の原因

内頸動脈に狭窄があり、その部位にできた血栓が頸動脈から遊離して眼動脈を経て網膜動脈を閉塞する機序が以前から報告されています。網膜虚血を眼科で診断したのちに当科で原因を検索しています。



網膜虚血と脳梗塞、死亡

当科での調査^{#1}では網膜虚血128名を調査したところ、その後1割にあたる12名で脳梗塞を発症、8名で死亡(悪性腫瘍5名、大動脈破裂1例など)しています。多いと思われるかもしれませんが、以前の報告^{#2,3}では網膜虚血は長期予後を見ると40%で死亡しておりその大半は心筋梗塞などの心血管死でした。この研究では治療介入(抗血栓薬内服)は5割に満たないものでしたが、当科の研究では抗血栓薬は9割に行っており治療介入の重要性を示すものでした。また、当科の研究では心房細動、大動脈複合粥腫、卵円孔開存など新たな原因も同定しています。

#1.岩永 健, 脳卒中学会 2018 #2.Sivalingam A International Ophthalmol 1989, 2. Hankey GJ BMJ 1991